

政策1:地域産業の成長と経済価値の創出

【政策目標(概要)】

地域経済の持続的発展と市民の暮らしの豊かさを実現するため、地域産業の競争力強化と「稼ぐ力」の育成、そして経済の好循環の創出が不可欠です。当市の多様な産業が集積する特性を活かし、事業者の生産性向上や経営力強化を図ります。また新規ビジネスの創出や企業誘致、地域資源を活用した価値創造を促進することで、地域経済の持続的な成長を目指します。

【施策の方向性(概要)】

①地域経済を牽引する企業の創出

環境変化に対応する企業の経営基盤強化や経営革新を促します。創業や事業承継、新分野へ挑む企業に対し、経営・資金・設備面から多面的な支援を行います。

②足腰の強い産業の構築

安定的な事業活動と新展開に向け、産業用地整備や企業誘致、物流環境の向上を進めます。あわせて、水産業・農畜産業などの生産・流通基盤を強化します。

③地域資源を活かした経済価値の創出

食・観光・スポーツ等の地域資源を産業と結び、產品の高付加価値化や販路拡大を促します。集客を飲食や体験消費へ繋げ、稼ぐ力と経済の好循環を創出します。

【現状・課題(概要)】

- 人口減少や物価高騰、DX・GXへの対応など環境が大きく変化しており、企業の生産性向上や新規事業展開を通じた産業競争力と「地域で稼ぐ力」の強化が求められています。
- 食と産業の基盤である水産業や農林畜産業は、地域特性を活かしたブランド化が進む半面、漁獲量変動や担い手減少、コスト高などの課題に直面しており、生産基盤の維持・強化と高付加価値化が急務です。
- 食、自然、文化、「氷都八戸」を象徴するスポーツなど豊かな地域資源を単なる交流人口の拡大や集客で終わらせず、宿泊、飲食、体験消費等へと確実に波及させることで、地域発の新たなビジネス創出と確かな経済効果に繋げていく必要があります。

政策2:地域産業を支える人材の育成と活躍

【政策目標(概要)】

地域経済の持続的発展には、人材が育ち活躍できる環境が不可欠です。深刻な人手不足の中、人材を単なる労働力ではなく「産業の担い手」として地域全体で支え、企業の魅力向上と多様な人材が安心して働ける環境づくりを推進します。また産学官金等の連携で企業の挑戦を後押しし、人材育成、企業成長、新たな価値創出へと繋がる好循環を目指します。

【施策の方向性(概要)】

①地域産業を支える人材確保

当市の産業・企業が持つ魅力の積極的な発信及び企業の「選ばれる力」を高める取組を支援するとともに、女性、シニア、障がい者、外国人など多様な人材の活用などの取組を一体的に支援することにより、地域産業を担う人材の確保を図ります。

②人材の定着と育成

多様な働き方の推進や魅力的で働きやすい職場づくり、人的資本経営の推進や時代の変化に対応できる人材育成の取組を支援することにより、誰もがそれぞれの能力を発揮し、安心して働くことができる環境づくりを進めます。

③多様な主体の連携による課題解決

企業、教育機関、金融機関、行政などの多様な主体が互いに協力関係を構築し、地域産業を支える関係者ネットワークの形成を推進することで、地域産業が抱える課題の共有と解決を図るとともに、新たな価値の創出につなげます。

【現状・課題(概要)】

- 多様な産業が経済を支える一方、少子高齢化や若者の市外流出により幅広い業種で人手不足が顕在化し、企業が求める人材と求職者のミスマッチなどにより、従業員の高齢化や若手人材の不足が深刻な経営課題となっています。
- 働き方の価値観が多様化する中、企業には採用力強化や柔軟で働きやすい職場づくりが求められますが、経営資源の制約が壁となっていることから、DX・GXへの対応や新規事業展開など、企業の変革と成長を牽引する人材の育成も急務です。
- 産学官金が組織の垣根を越えて連携して支え、女性やシニア、外国人など多様な人材が活躍できる環境整備が必要である。産学官金が組織の垣根を越えて連携しながら、地域全体で課題解決と人材育成に一体的に取り組み、地域産業の競争力強化と新たな価値創出へ繋げていく必要があります。

政策3:地域資源を活かした魅力と交流の創出

【政策目標(概要)】

祭りや自然・食などの多様な地域資源を「八戸ならではの価値」として磨き上げます。これらの地域資源に誰もが親しむことができる環境整備や次世代人材の確保、多様な主体との連携を進めるとともに、戦略的な情報発信により地域内外のファンを増やします。これにより、賑わいと魅力にあふれ、知るほどに関わりたくなる「選ばれるまち八戸」を目指します。

【施策の方向性(概要)】

①地域資源の魅力向上と新たな価値の創出

地域資源を守り魅力を磨くとともに、多様な主体や多分野の連携により心を動かす体験を創出し、八戸ならではの新たな価値向上を図ります。

②地域資源に親しむ環境整備と人材育成

文化やスポーツなどの地域資源に親しめる環境を整えます。また、資源の保存と観光活用を両立させつつ受入体制を強化し、市内外から多様な人材を呼び込み育成します。

③地域資源の価値の発信

媒体特性に応じた効果的な発信で魅力を伝え、内外のファン増加と情報伝播の好循環を生み出し、認知から来訪や参加等の行動変容へ繋がります。

【現状・課題(概要)】

- ・是川縄文館やYSアリーナ、美術館等の充実した施設に加え、八戸三社大祭やえんぶり、種差海岸や朝市など魅力的な地域資源があります。
- ・人口減少による担い手不足や活動の固定化が課題であり、裾野拡大や費用確保を通じて伝統や文化を未来へ受け継ぐ工夫が必要です。
- ・多様な来訪者の滞在環境を整え、資源の保存と観光活用を両立させながら、八戸ならではの価値を創出・向上していくことが求められます。
- ・媒体とターゲットのズレ解消に向けた戦略的発信で魅力を届け、市民が誇りを持ち、地域内外から選ばれるまちを目指す必要があります。

政策4:次代を担う若者が自分らしく活躍でき、選ばれるまち

【政策目標(概要)】

若者が八戸を知り、地域や仕事との関わりを深めながら、自分らしく過ごし、活躍できる環境づくりを進めます。また、市内外の若者が八戸との接点を持ち、その感性や発想をまちづくりなどに活かす機会を広げることで、若者の成長や自己実現と、地域の新たな動きにつなげます。こうした取組を通じて、若者が暮らす場所、働く場所、関わり続けたい場所として八戸を選ぶことのできるまちを目指します。

【施策の方向性(概要)】

①若者の自己実現と活躍の支援

若者が自らの可能性を広げ、強みや個性を生かして挑戦できる環境を整えるとともに、地域との関わりや交流の機会を広げます。

②関係人口の創出と還流の促進

体験交流や地域活動などを通じて当市との接点を広げ、若者や市出身者との継続的なつながりを深めることで、将来的な還流につなげます。

③未来を描ける仕組みづくり

若者が八戸で暮らし、働くことを将来の選択肢として持てるよう、地域の産業や人に触れる機会を広げ、八戸への愛着や誇りを育みます。

【現状・課題(概要)】

- ・進学・就職期の若者の市外流出が課題となっており、20代～30代前半では一定の転入も見られ、転出した若者が将来八戸へ戻る可能性があります。
- ・若者が八戸で働き、暮らす姿を具体的に描けるよう、市内企業等の情報を本人や保護者、教育機関に届ける必要があります。
- ・若者の思いや発想を生かし、主体的な関わりを地域で受け止め、次の活動につなげる環境づくりが求められています。
- ・市外の若者や市出身者との継続的なつながりをつくり、UIターンや関係人口の創出につなげることが重要です。

政策5:学びと成長を支える環境づくり

【政策目標(概要)】

考え方やライフスタイルが多様化する中においても、関係者が連携して子どもの学びと成長、子育て家庭への切れ目ない支援を一体的に展開します。希望する誰もが安心して妊娠・出産・子育てができ、子どもが健やかに成長できる環境を整えます。あわせてライフステージに応じた学びの機会を充実させ、暮らしの充実や生きがいにつなげることで、未来を創る「ひと」を育みます。

【施策の方向性(概要)】

①こどもの学びを深め成長を育む環境づくり

児童・生徒数の減少に対応しつつ、関係機関が連携して一人ひとりに応じた支援や居場所づくりを進め、誰一人取り残さない学びと成長を支えます。

②子育て家庭に寄り添う切れ目ない支援

妊娠期から社会的自立までを見通した切れ目のない支援を進め、不安に寄り添い、関係機関や地域が連携して親と家庭を社会全体で支えます。

③生涯にわたり学び続ける環境づくり

学び直しや新たな知識・技術の習得等、多様な世代・立場に応じた学びを充実し、市民が生涯自分らしく心豊かに学べる環境を整えます。

【現状・課題(概要)】

- ・出生数の減少など少子化が加速し、子育てを取り巻く環境は大きく変化しています。
- ・共働き世帯の増加や孤立など多様化する課題に対し、関係機関が連携して妊娠期から学齢期まで切れ目ない支援体制を届ける必要があります。
- ・安全安心な教育環境の整備や関係機関の連携を進め、見守りや居場所づくりにより「誰一人取り残さない」サポート体制を整えることが重要です。
- ・変化の速い時代に対応するため、子どもから大人まで身近な場所で学び続け、豊かな暮らしや活躍につなげる機会の提供が求められます。

政策6: 支え合い、共に生きる地域づくり

【政策目標(概要)】

年齢や性別、国籍、障がいの有無などに関わらず、多様な人々が互いに違いを尊重し、誰もが自分らしく暮らせる共生社会を築きます。また、多様な形で地域活動に参加できる環境を整えてつながりを広げ、地域課題の解決と活性化を図ります。支える側・支えられる側の固定的な関係を超え、地域全体で支え合うまちを目指します。

【施策の方向性(概要)】

①地域で互いに支え合う仕組みづくり

高齢者や困難を抱える人が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、市民と行政が連携し支援します。また、世代や文化を超えたつながりを深め、誰もが生涯現役として役割を持って支え合う仕組みづくりを進めます。

②多様性を認め合う地域づくり

誰もが自分らしく暮らせるよう、互いの違いを認め合い、分け隔てなく関わることのできる地域づくりを進めます。

③社会参画の促進による地域活動の活性化

多様な主体の協働や活躍の場を通じて、持続可能なコミュニティの発展と地域活動の活性化を図ります。

【現状・課題(概要)】

- ・超高齢化が急進し、医療・介護を必要とする人々が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境づくりの重要性が増しています。
- ・分野ごとの対応では支えきれない課題が増えており、孤立を防ぎ本人や家族の状況に応じた切れ目のない支援体制が求められています。
- ・外国人住民が急増し文化的な背景が多様化する中、不安や戸惑いを解消するための相互理解や日常的な交流の促進が課題となっています。
- ・核家族や単身世帯の増加に伴い町内会加入率が低下しており、地域活動の担い手不足や地域コミュニティの希薄化が生じています。

政策7:人と環境にやさしい都市基盤の形成

【政策目標(概要)】

快適に暮らし続けていくために、都市基盤を適切に維持し、暮らしや産業活動を支えるとともに、都市機能が集まる中心街を「ひと中心の場」として育て、にぎわいや魅力を地域全体の活力につなげていきます。また、豊かな自然との共生を図りながら、持続可能な都市基盤を整備し、人と環境にやさしい、快適で便利に暮らし続けられるまちづくりを進めます。

【施策の方向性(概要)】

①持続可能なまちの基盤づくり

道路・公園・上下水道等の都市基盤を効率的に維持・整備し、安全で利便性の高いまちを支えるとともに、公共交通の必要なサービスを維持します。

②良好な市街地の形成

人口減少や暮らし方の変化に対応し、中心街を核として各地区の特性やニーズを生かし、住みやすく、住み続けられるまちを形成します。

③自然環境と生活環境の保全

環境負荷を低減し、脱炭素化を進めるとともに、市民等と連携した環境保全を進め、快適な生活環境を次世代へ引き継ぎます。

【現状・課題(概要)】

- ・将来の人口や暮らし、産業活動を見据え、必要な機能を選択し、長寿命化と効率的な管理による持続可能な基盤づくりが求められています。
- ・公共交通の維持について、利用実態や地域の状況を踏まえ、提供方法や運営体制を見直し、必要な移動サービスを将来にわたり安定的に提供できる仕組みを構築していく必要があります。
- ・中心街の都市・交流機能を高め、身近な生活圏の安全性や利便性を確保し、住みやすく活動しやすいまちづくりを進めていく必要があります。
- ・自然環境や生活環境に配慮し、環境保全と地域振興を両立させ、持続可能な都市環境を形成していく必要があります。

政策8:命と暮らしを守る安全・安心の確保

【政策目標(概要)】

災害・事故・犯罪・健康などの不安を減らし、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるまちを目指します。平時から自助・共助の意識を高め、地域で支え合うとともに、関係機関の連携による迅速な対応力を整えます。また、身近な危険の軽減や必要な医療・相談につながる環境を整え、市民の生命・身体・財産と心身の健康を守ります。

【施策の方向性(概要)】

①災害に強い地域づくり

災害時に市民の命と暮らしを守るため、防災意識と地域の防災力を高め、避難・医療・救急救助体制を強化し、災害に強い地域づくりを進めます。

②暮らしの安全対策

交通事故や犯罪、消費者トラブルなどを防ぎ、関係機関と連携して安全対策を進め、安心して暮らせる地域をつくります。

③心と体の健康づくり

地域医療を支える体制を維持し、必要な医療や相談につながる環境を整え、市民の心身の健康と安心した暮らしを支えます。

【現状・課題(概要)】

- ・東日本大震災などの経験を踏まえ、平時から地域で支え合い、災害への備えと防災力を高めることが重要です。
- ・災害の激甚化や高齢化を踏まえ、市民・地域・関係機関・行政が連携し、避難支援や救急救助などの対応力を強化する必要があります。
- ・交通事故や犯罪、特殊詐欺、消費者トラブル、野生動物被害など多様化するリスクに、関係機関と連携して安全対策を進める必要があります。
- ・地域医療の維持や生活習慣病対策、こころの健康づくりを進め、必要な医療や相談につながる環境を整えることが重要です。